



校長室から

甘利 尚之

令和4年1月18日(火) No.9

人間関係を創っていく力を学ばせたい ～「塩尻小フェスティバル」～

昨年、12月24日(金)、「塩尻小フェスティバル」が開かれました。児童会の本部から、その目的として、「全校の皆さんに各委員会のことを楽しく知ってもらうこと」「全校の皆さんが各委員会のコーナーを体験することで、協力したり、仲良くなってもらったりすること」が示された、児童会主催のイベントです。



高学年と低学年が、数名のグループをつくり、学校内の体育館や教室等に設置された各委員会の体験コーナーをまわります。「各委員会の体験コーナー」には、各委員会の児童が考えた、その委員会の活動内容に即したゲーム的な体験内容が用意されています。例えば、保健委員会の「ウイルスバスターズ」という体験コーナーでは、段ボールで作った「ウイルス」を的とした「的あてゲーム」をして点数を競うというゲームが用意されていました。



こういった異学年が集う活動・「遊び」の中で、「協働」のよさの自覚や、人間関係づくりの力が培われていくように思われます。高学年の児童は、自然に低学年の行動に心配りをし、年下の子たちが喜んで活動する姿を見ることを通して、他者の役に立つことへの喜びを感じ、自己肯定感を高めます。また、低学年の子どもたちは、やさしいお兄さんやお姉さんへの憧れをもち、その役に立とうと自分にできることで協力し、それを高学年に認められることで満足感を得ます。

こんな、様々な他者と実際に関わる中で得られる力、是非、地域の方と関わる中で育てていきたいものだとは常々感じているところです。それが地域への愛着を育てることにつながることも考えます。

そんな学習活動の再開を期待していた矢先、また、新型コロナウイルスの感染助教が悪化してしまいました。「もっと」思ったように、地域とつながりながら学べる日が来ることを期待しています。